

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		12,686	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふつ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふつ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		12,686

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度		
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）				%		%		%	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%	%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度		
原単位あたりの排出量	0.03782	/ GJ	0.03725	/ GJ	0.03755	/ GJ	0.03824	/ GJ	/ GJ
削減率（対基準年度）			1.5	%	0.7	%	▲ 1.1	%	%
原単位あたりのみなし排出量					0.0292	/ GJ	0.0299	/ GJ	/ GJ
削減率（対基準年度）					22.8	%	20.9	%	%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

2024年度は猛暑や冬期の低気温により冷熱、温熱とも需要が増加しボイラーの稼働が増加した。そのため高効率の電動冷凍機（ターボ式冷凍機）の使用比率が相対的に低下し、原単位あたりの排出量が2023年度に対して増加した。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理／省エネルギー使用量等の把握及び管理	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ推進会議を毎月開催しエネルギー使用量の把握および分析を実施する。また、カーボンニュートラルへの取り組みや設備の維持管理に関して議論の場とする。 毎週の定例会議にて販売量および効率の推移を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年0.2%のプラント効率向上により温室効果ガスの排出を抑制。 	プラント効率は対前年▲1.1%と悪化した。 毎週の定例会議および毎月の省エネ推進会議にて効率の推移を確認しプラント運転の効率化に反映させるようにした。
一般管理／省エネルギー使用量等の把握及び管理	<ul style="list-style-type: none"> 巡視点検用に導入されたタブレット端末の活用により記録のデータベース化を継続して実施する。 		巡視点検用にタブレット端末を導入し、電子データとして記録を保存管理した。
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> 需要熱量に対する最適な運転機器の管理を実施する。 機器のインバーター化を検討する。 クールビズ・ウォームビズの推奨。 		貫流ボイラー2基を高効率の潜熱回収型への更新工事を実施した。5月から10月までクールビズを実施した。11月から3月までウォームビズを実施した。
省エネルギー・省資源の推進／照明	<ul style="list-style-type: none"> 使用していない部屋の照明の消灯を徹底する。 プラント内照明を巡視点検時等の必要時以外は消灯を徹底する。 		使用していない部屋の照明を消灯した。 プラント内照明を中央監視のリモコンスイッチで点灯の管理を実施した。
省エネルギー・省資源の推進／OA機器	<ul style="list-style-type: none"> 離席時は、スリープ機能を使用する。 外出時や退社時は、パソコンの電源を切り、待機電力を削減する。 		パソコンにスリープ機能を設定した。外出時は、パソコンの電源を切って待機電力を削減した。
廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> 両面コピー、裏紙利用等による紙使用量の削減。 		両面コピー、裏紙を積極的に使用して、紙の使用量を削減した。 会議等でプロジェクターを使用し資料の配布を削減した。 記録用紙の電子回覧押印により紙の使用量を削減した。
一般管理／省エネルギー使用量等の把握及び管理	<ul style="list-style-type: none"> 毎月実施している需要家との情報交換会で無駄な熱の使い方をしていないか、需要家と一緒に検討を行い、無駄な熱の使用をなくすことで、消費エネルギーの低減を図る。(熱交換器からの放熱量の低減に関する提案など) 		毎月、需要家と情報交換会を行い熱使用量のデータ資料を基に情報を提供しエネルギー使用量の共有をした。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 2 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
J-クレジット	国内移転	2,767.0 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

2,767.0	t-CO ₂
---------	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> ・コピー用紙を環境ラベル商品など環境に配慮したものを購入した。 ・文具品等を購入するときは、できる限りグリーン購入法の対象商品にした。 ・FAXの電子データ送付を実施し紙の削減を図った。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<p>定時退社に努め、空調・照明の削減に努めた。</p>
